



# untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉青年経営者会通信

## contents

企業と地域の繋がりを考える—湘南ベルマーレ・眞壁社長に聞く—  
役員紹介  
活動報告

・・・・・・ 1・2・3面  
・・・・・・ 3・4・5面  
・・・・・・ 6面

## 企業と地域の繋がりを考える ～湘南ベルマーレ・眞壁社長に聞く～

社会福祉法人が経営する高齢者・障がい者施設、保育所は、近年社会の重要なインフラとなる一方、それを経営する私達は目の前の利用者に対しての処遇向上に熱心に取り組む一方、「地域の中の施設」としての位置づけに試行錯誤されている法人も多いのではないのでしょうか。今回は、親会社を持たない『市民総合型スポーツクラブ』としてプロサッカーチームを中心に活動し、Jリーグ1部昇格という偉業を果たした湘南ベルマーレ眞壁潔社長に、企業と住民がお互い支え合うモデルを造り上げられたその経験談や理念について、お伺いしてきました。皆様の「地域の中の施設」づくりのご参考になれば幸いです。

(記録 総務広報二ノ宮)

眞壁社長：眞壁 西山青年協副会長：西山 総務広報委員長：眞壁 と表記させていただきます。

西山：今日は、お忙しい中（来訪時、ミーティング中であつた）お時間をとっていただき、有難うございます。限られた時間ではありますが、色々とお話を伺えたらと思っております。私達福祉施設を経営しているものにとって、施設運営と地域のご理解・ご協力は経営上の重要なファクターとなっています。かつて中田英寿氏を擁したベルマーレ平塚がJ2に陥落し、同時期にクラブ経営を引き受けた眞壁社長が、地域の支援を受け、昨季華やかにJ1に復帰されたことは私たちの記憶に強く鮮明に残っております。

眞壁：私が当クラブの経営を引き受けた当時は、トップリーグから陥落した上、メインスポンサーのフジタが撤退するなど、経営状況が非常に厳しく、混乱状況でした。代表者の引き受け手も中々見つからず、クラブ存亡の危機と言っても良かったと思います。廃部もやむなしか、という空気が何となくあったころ、地域住民のクラブ存続を求める熱心な声が多く集まり、河野太郎衆議院議員が存続のために動き、元々昔から平塚で会社を営む私に声がかかったのが、きっかけです。地域でやっていくからには、経営状況が厳しいからといった理由で簡単に放り出すことができない。散々悩みましたが、「地域のために自分がどれだけ役立つか」ということを念頭に、経営陣に加わりました。結局、当初はベルマーレの会長職に河野太郎氏、社長職を



株式会社湘南ベルマーレ 眞壁 潔 社長



元ジュビロ磐田社長の小長谷さんをお願いし、自らは経営が落ち着くまでお手伝いをするという立場にありました。

**真壁**：フジタから自治体、地域企業に株式を譲渡され、ベルマーレは全く新しい会社になったと認識しています。その後のチーム創り、経営はいかがだったのでしょうか。

**眞壁**：社長の小長谷さんは同時期にJ1に昇格したジュビロを見ても分かる通り、クラブ経営に非常に長けた方です。ただジュビロとベルマーレと比べた場合、バックボーンがあまりに違いすぎました。資金がないため、主力選手がいなくなったチームは当然ながら成績が上がらない。J1で活躍していた時代を知っている周囲は、氏に強くお願いして平塚に連れてきて、社長を引き受けてもらったという事実を忘れたのか、チーム不振の責任を氏に求めてしまったのだと思います。その結果、経営が安定するまでというつもりであったのが、社長職を引き受けるという結果となってしまいました。ベルマーレは平塚・湘南地域の公共財です。その公共財を誰かが守らなければいけません。

**西山**：社長に就任されてから、経営を成り立たせるため、またチームを再建するためどのような手法をとられたのでしょうか。

**眞壁**：チームが強くなければお客は集まりません。お金をたくさん使って良い選手を集められれば簡単ですが、そのお金が限られている。そこで、良いコーチを多くあつめることにしました。学校だってそうでしょ？有能な人材を育てるならば、選手に目が届く人数でかつ他のクラブが欲しがらる有能なコーチが必要。またそのコーチの人選をする有能な強化部長が必要。それらの支えがあつて有能な人材を自前で育てることができる。結果、6年たつて、アンダークラス（五輪候補）で日本代表を4人輩出し、当時240名しかいなかった子ども達が今では1400名を超えるまでになりました。社長になった時に、子ども達にサッカーを教えるだけでなく、「時間を守る」「帽子をとってしっかりと挨拶をする」など当たり前の日常生活の態度を意識して指導するようになってきた。いくらサッカーが上手でも、挨拶ができなければチームプレイができない、人の話を聞くことができなければ、戦術も理解できません。それをベルマーレで教えていきたいと思っています。

**西山**：地域の子も達が地域のチームで活躍して有名になっているのですね。

**眞壁**：「うちの近所の〇〇くんが活躍したよ！」「〇〇って同級生だよ！」など、地域の選手、市民クラブとして町中で応援する空気を創り上げていきたいと思っています。市民クラブという意味では、清水エスパルスをあげられる方もいますが、鈴与という親会社があることで、ベルマーレと大きく形態が異なります。地域経済・財界の強い応援を受けて、専用の競技場なども所有している。我々市民クラブは何十億とかけて作られた競技場を使って、地域に何を返すことができるかということを考えなければいけません。私が考えるに、我々の使命はその町の文化づくりです。「この町に住みたい」「町のパワーの源泉」「地域の看板」であることです。

**眞壁**：福祉施設のあり方と通じるところがありますね。

**眞壁**：福祉は突き詰めると『人の縁』だと思います。人の縁から、町内会を始めとした地域コミュニティ、地域の縁づくり。そうした人の縁は、行政が作りだすことはできません。人が集まるところに縁は発生し



西山副会長（奥）と眞壁総務広報委員長（手前）



ます。例えば、競技場に6,000人集めたとしましょう。その集まった人の家族が3名だとしても、私達を介してそれだけで既に18,000人の縁に結び付けることができます。地域で人間関係が希薄になってきた今、クラブも施設も人間関係構築のツールとしての機能を果たし、コミュニティ・ネットワークを広げ、地域の方の地元愛を育てていかなければいけませんね。

西山：そうした活動の結果が、経営の良化につながるのですね。

眞壁：ご存じの通り、かつてJ1にいたヴェルディも大分も破綻しました。それだけクラブチームの経営は困難です。クラブチームの経営で一番難しいところは、縮小化ができない、つまり常に上を目指して走っていかなければならないところにあります。弱くなったところ、上を目指そうとしないところは応援しようと思わないでしょ？それはお金が集まらないことと同意義です。いくら公共財だと言っても、お金がなければクラブ経営はできなくなります。チームの強化と同時にクラブに縁を持つ方、関心のある方、ファンを増やしていく。常に門戸を開き、地域住民の縁づくりの入り口としての機能を果たす。そういった意味では経営ではないのかもしれませんが・・・

西山：眞壁社長のクラブ経営の理念は、福祉施設経営者にとって参考になるところが多々ありました。私達も地域の中の施設としての原点を再度振り返り、周囲にファンを創っていかなければなりません。今日はお忙しい中、お話を賜りましてありがとうございます。

約束の1時間を超えて2時間も熱心に質問に答えて下さった眞壁社長。途中で来客があっても、先方をお待たせした上に、すぐに戻ってきて離席前と変わらないテンションで、熱くお話をくださいました。紙面の都合上、お話いただいたことの一部しか載せることができないことをお詫び申し上げます。熱いお話の中に織り込められた、しっかりしたマーケティングと、組織強化の手法に勉強させられることばかりでした。総務広報委員一同、眞壁社長のこれからのご活躍とベルマーレのJ1再昇格を祈念致しております。

## 役員紹介

平成23年4月より、神奈川県社会福祉青年経営者会の会長に赤間源太郎（相模福祉村）が再任し、新たな執行部も選任され、新期も無事スタートしました。会長以下、役員の方々をご紹介します。

神奈川県社会福祉青年経営者会会長 赤間 源太郎      社会福祉法人 相模福祉村（相模原市）



会員の皆様、地域の皆様には、日頃より神奈川県青年経営者会活動に対し、ご参加とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、去る3月11日に発生した東日本大震災は、地域の「絆」の大切さを思い出させてくれました。私たち組織活動は、地域の安全・安心に対する支援にも携わるなど多岐にわたっておりますが、この震災で災害に強いまちづくりに向けても、地域自治会や行政関係者とも連携していくことが強く求められたと改めて考えさせられました。

今求められている「社会福祉法人・社会福祉施設の地域貢献」。

この言葉に、今さら違和感をもつ人もいないのではないかと思います。社会福祉法人は、一般的に存在自体が「地域貢献」じゃないかと思う人も多いのでしょうか。たしかに、公益性の高い法人として、さまざまな社会福祉サービスを通じ、地域に貢献してきたのは、まぎれもない事実。

しかし、最近では規制改革のもと、介護サービスなどに、株式会社やNPO法人なども参入できるようになっ



てきました・・・。だからこそ、あらためて社会福祉法人は「何がちがうの?」「公益性は?」「地域における役割は?」など、そのあり方について応えなければならないのでしょう。

私たちは改めて地域との「絆」を深め、地域の期待に応えられる存在になりたい。そう、なるための努力を惜しみなく発揮したいと考えております。

福祉を取り巻く環境が、変化していく中で、高齢・保育・障害のそれぞれの分野で、課題や問題点を研究したり、年間を通して、様々な講師をお招きする研修会や集中セミナーが、青年経営者会の活動の中心になります。また自らの専門性をより高められ、経営者としての資質を学べる場の1つとして考えています。副会長として2期目の会長を微力ながらバックアップさせて頂き魅力ある会の運営に努めてまいりたいと思います。



**副会長（総務広報担当） 西山 宏二郎 社会福祉法人 藤嶺会（横浜市）**



赤間会長の下、副会長を務めさせていただきます愛慈会の藤田です。本会は高齢、障がい、児童など施設の枠を超えて、多くの仲間との交流、情報交換やお互い切磋琢磨してゆける場であると感じております。個人的には定年が近づきつつありますので、20代、30代のポジティブな若い会員の拡大にも尽力したいと考えております。今後も色々な活動を通して多くの会員の皆さんと情報交換や交流を深めてゆきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

**副会長（総務広報担当） 藤田 理恵 社会福祉法人 愛慈会（厚木市）**

副会長を務めさせていただいております誠々会の甘利です。平成13年に入会后、総務広報委員に所属し、現在は研修委員会を担当しております。私は特養を経営しておりますが、高齢分野だけでなく障害・保育分野の多くの仲間ができ、活動を通して共に成長してまいりました。これからも会の発展のためしっかりと支えていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。



**副会長（研修担当） 甘利 悟 社会福祉法人 誠々会（厚木市）**



改めて、4月より副会長の大任を務めさせて頂くことになりました。社会福祉法人をとりまく環境が刻々と変化していく中で「私ども青年経営者に求められるものは何か」を会員のみなさんといっしょに考え、勉強して行きたいと思っております。又、新規会員の拡大、より魅力ある研修会、勉強会を企画して行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

**副会長（研修担当） 田代 鉄也 社会福祉法人 喜寿福社会（藤沢市）**

効率的な経営を目指すには、自分の強みと、組織や会社の強みは何かを絶えず意識的に探求し、その強みを基礎としてそれぞれの仕事を築かなければならない。そしてこれらのことは、誰しもがその気になれば、十分実行し得るのだ（ピーター・ドラッカー）。まだまだ未熟者ではありますが、よろしくお願ひいたします。

**監事 佐竹 昇平 社会福祉法人 聖音会（綾瀬市）**







この度監事を務めさせていただくこととなりました清琉会の原田です。神奈川県社会福祉青年経営者会が設立された時の志と目的を改めて見直し、会の発展と共に自身の成長に繋がる活動に取り組ませて頂きたいと思いをします。

**監事 原田 忠洋 社会福祉法人 清琉会（厚木市）**

これまで研修委員会では、福祉法人の新たな経営の糧となる研修を企画、実施して参りました。地域を守り、法人のさらなる発展を考えたいという点では、危機管理は最大の課題となります。今年度は利用者、地域、そして職員を守るための手法に焦点を当て、研修を進めて参りたいと思いをします。

**研修委員長 押川 哲也 社会福祉法人 地域福祉協会（逗子市）**



引き続き総務広報を担当させていただくこととなりました。前期におきましては、皆さまからのご意見を伺いながら、様々な経験をさせていただきました。本誌のサブタイトル「自由に広がりある活動を目指して」を念頭に、今期においても、経営者の皆様にとって少しでも役立つ広報誌作りに取り組んで参りたいと思いをします。

**総務広報委員長 真壁 洋道 社会福祉法人 真幸会（平塚市）**

この度、介護保険部会長を仰せつかりました照陽会の高橋と申します。種別検討を主目的としている本部会では、介護保険制度のみならず私たちが求められている事について研究をしていける場であると考えております。多くの会員の皆様方と学び、語るにより、互いに青年経営者としての感性を磨いていきたいと思いをします。皆様方のご協力の下により良い会としていきたいと思いをしますので、ご支援の程よろしくお願いを申し上げます。

**高齢研究委員長 高橋 輝彦 社会福祉法人 照陽会（川崎市）**



保育業界に大きな改革の波が押し寄せてきました。一期目同様、二期目も「子ども達が安心・安全で過ごせる保育所」を仲間達と共に模索して行きたいと思いをします。また、一人でも多くの仲間に青年経営者会の魅力を伝えられるよう活動して行きたいと思いをします。ご協力よろしくお願いを致します。

**保育研究委員長 山本 昇 社会福祉法人 山栄会（秦野市）**

今、障害福祉サービスが変革の時を迎えています。障害者自立支援法の廃止が明言されている状況下において、新法の動向を見据えつつ、今後、社会福祉法人が障害福祉サービスをどのように経営・展開すべきなのかを改めて考える必要があります。横のネットワークを広げながら、精進したいと思いをしております。今後ともよろしくお願いを致します。

**障害研究委員長 田丸 真一 社会福祉法人 湘南の凧（逗子市）**



今年度より会計担当を仰せつかりましたつちや社会福祉会の水島です。かなり長く青年協に所属させて頂いておりましたが、初めてのことなので新人のように緊張しております。早く仕事を覚え、会の運営をサポートできるよう頑張りたいと思いをします。どうぞよろしくお願いをします。

**会計担当 水島 圭一 社会福祉法人 つちや社会福祉会（平塚市）**



# 活動報告

## 総会・研修会開催 -地震災害軽減に向けて-

### 総会

平成 23 年 6 月 15 日、神奈川県社会福祉青年経営者会の総会が行われ、下記議案について、いずれも賛成多数で可決承認されました。

総会当日の会員数 84 名、委任状を含めた出席者 49 名で総会は成立し、議長に石井康愛氏（山中福祉会）が選出され、議事が進行された。

第 1 号議案 平成 22 年度事業報告（西山宏二郎氏[藤嶺会]より報告）

第 2 号議案 平成 22 年度収支決算（水島圭一氏[つちや社会福祉会]より報告）

各案について、議場に諮ったところ、特に意見はなく、全ての議事が終了。その後、総務広報委員長より本会定年卒業者の紹介があり、代表して川瀬和一氏（共生会）よりご挨拶をいただいた。

### 研修会

平成 23 年 6 月 15 日、東京大学地震研究所の大木聖子助教授をお招きし、東日本大震災 -地震災害軽減に向けて- というテーマで研修会を行った。

講演の冒頭から、「東日本大震災」における地震を直接とした被害は少なく、地震によって引き起こされた津波被害が甚大だったとの報告があった。地震大国と言われる日本は、世界で発生する地震の 10% が発生しており、体を感じない地震も含めると一日 300 回前後は発生しているとのこと。また、地震はプレートの境界で発生するため、同じ地区で発生する可能性が高い。

その地震大国である日本における学術的見解では、マグニチュード 9 以上の地震は日本では発生せず、その観点から判断すると今回の震災は想定外という表現になる。

マグニチュード 9 という今まで体験したことのない地震における直接的被害が少なかったのは、地震の波長周期と建物が触れる波長周期が共鳴しなかった建物が想定される。

一方、甚大な被害の原因となった津波は、海岸から離れれば離れるほど速度が速く、岸に近づくことで速度が遅くなり、行き場を失った波が増長し、40m 近くの津波を発生させ、海岸部だけでなく内陸部にも多くの被害をもたらした。

津波のような想像を遥かに超えるエネルギーの前に、有効な対策はソフト（教育・訓練）による予防であり、それによって、今回犠牲者を減少することができた事例も多く見られる。

内陸で発生する地震はマグニチュード 7 が最大と予想され、マグニチュード 7 であれば準備（教育・訓練）さえしっかりしていれば被害は極力抑えることが可能である。教育・訓練に重要な事は、発生前の想像力、発生時の判断力と行動力、発生後は共感力であるとの話もあり、経営に通じるものであると感じることもできた。

（記録 総務広報田村）



### 会員状況

会員数 84 名 法人数 65 法人(9 月 1 日現在)

#### 編集後記

遅々として進まないように見える復興政策。ようやく新政権が発足しましたが、この内閣が日本復興のための道筋を示してくれるものと期待してやみません。ありがたいことに、当会の“赤間内閣”は会員皆さまのご支持をいただき、メンバーもあまり変わらず、もう一期継続させていただくこととなりました。この機会にお互い切磋琢磨できる仲間、次代のリーダー候補を再度募集させていただきます。ぜひご一報を！

発行／神奈川県社会福祉青年経営者会

連絡先／〒221-0844

横浜市神奈川区沢渡 4-2

神奈川県社会福祉会館内

(福) 神奈川県社会福祉協議会

地域福祉部社会福祉施設・団体担当

電話：045-311-1424

Fax：045-314-3472